



Sitecore CMS 6

コンテンツ リファレンス

Sitecore のコンテンツ管理のコンセプトの概要

目次

| | | |
|-----------|------------------------------|----|
| Chapter 1 | イントロダクション | 3 |
| Chapter 2 | コンテンツの管理 | 4 |
| 2.1 | コンテンツ ツリー | 5 |
| 2.1.1 | 標準のコンテンツ ツリー エリア | 8 |
| | コンテンツ | 8 |
| | レイアウト | 8 |
| | メディア ライブラリ | 9 |
| | システム | 9 |
| | テンプレート | 9 |
| 2.2 | データベース | 10 |
| 2.3 | アイテムのバージョン管理 | 11 |
| 2.4 | プロキシ | 12 |
| 2.4.1 | プロキシ テンプレート | 13 |
| 2.4.2 | 必要な構成 | 13 |
| 2.5 | エイリアス | 15 |
| 2.6 | リンクの管理 | 16 |
| Chapter 3 | パブリッシュ | 17 |
| 3.1 | 概要 | 18 |
| 3.2 | パブリッシュの種類 | 19 |
| 3.2.1 | 個々のアイテムをパブリッシュする | 19 |
| 3.2.2 | 全サイトをインクリメンタル パブリッシュする | 19 |
| 3.2.3 | 全サイトをスマート パブリッシュする | 19 |
| 3.2.4 | 全サイトをリパブリッシュする | 19 |
| 3.3 | パブリッシュ制限 | 20 |
| 3.3.1 | パブリッシュ セクションのフィールド | 20 |
| 3.3.2 | 有効期間セクションのフィールド | 21 |
| 3.3.3 | プレビュー モード | 21 |
| 3.3.4 | スケジュールされたパブリッシュ | 21 |
| 3.3.5 | ワークフローによって起動されるパブリッシュ | 21 |
| 3.3.6 | パブリッシュ ビューワー | 22 |
| 3.4 | パブリッシュ ターゲット | 24 |
| 3.5 | ライブ モード | 25 |
| 3.5.1 | ライブ モードの構成 | 25 |
| 3.5.2 | レンダリングへの影響 | 25 |
| 3.5.3 | キャッシュへの影響 | 26 |

Chapter 1

イントロダクション

この文書では Sitecore によるコンテンツ管理のコンセプトの概要を解説しています。コンテンツ ツリー、バージョン管理、パブリッシュなどの各種のトピックを取り扱います。また `web.config` ファイルを編集してライブ モードで稼働する方法についても説明します。プロキシとエイリアスの管理についても説明します。

この文書には次の章があります。

Chapter 1 — イントロダクション

この文書について簡単に説明します。

Chapter 2 — コンテンツの管理

この章では Sitecore によるコンテンツ管理の方法について説明します。

Chapter 3 — パブリッシュ

この章では Sitecore がコンテンツを作業データベースからライブの Web サイト データベースにコピーする方法について説明します。

Chapter 2

コンテンツの管理

この章では Sitecore によるコンテンツ管理の方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- コンテンツ ツリー
- データベース
- アイテムのバージョン管理
- プロキシ
- エイリアス
- リンクの管理

2.1 コンテンツ ツリー

Sitecore はコンテンツをアイテムに保存します。アイテムはツリー状に整理されます。コンテンツ ツリーの一部とそのアイテムをエディターで開いた場合の画面の例を下記に示します:



このアイテムは Web ページ上では下記のように表示されます:

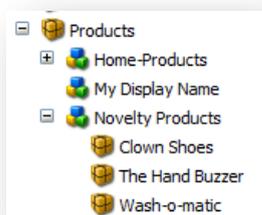


Sitecore でのアイテムとは、構造化されたコンテンツの要素です。アイテムはリレーショナル データベースにおけるレコードに類似しています。アイテムには 1 つまたは複数の各種のデータ フィールドがあり、それらはフィールド セクションにグループ化されています。

たとえば、下記の画面例では、[Banner] フィールド セクションには 2 つのフィールドがあります。それらは [Banner Slogan] テキスト フィールドと [Banner Image] フィールドです。



アイテムを他のアイテムを含むコンテナとして機能させることができます。これによってサイトを構造化することができます。たとえば、次の画面例のアイテムにはどれもフロントエンドでレンダリングされるフィールドがあり、同時にこれらのアイテムは他のアイテムのためのコンテナ (Windows エクスプローラーのフォルダーのように) として機能することができます。コンテンツ作成者はフォルダー型のアイテムを作成することも可能です。



アイテムの中には、ページ要求への対応には関わりますが自身をレンダリングすることのないものもあります。たとえば、キャッシュ設定アイテムなどの各種のサイト設定のアイテムなどです。

各種のアイテムには異なる種類と機能があり、別の場所に保存されています。たとえば、コンテンツ アイテムは [/sitecore/コンテンツ/] に、レイアウトは [/sitecore/レイアウト/] に、ワークフロー アイテムは [/sitecore/システム/ワークフロー/] に保存されています。

フロントエンドではアイテムへの URL は次の公式によって構成されます: “ホスト名” + “Sitecore パス”。ルート アイテムは web.config 構成ファイルで定義されています。Sitecore は URL のエイリアスを作成する機能も備えています。

URL の例:

<http://localhost/sitecore/content/Sample/Products.aspx>

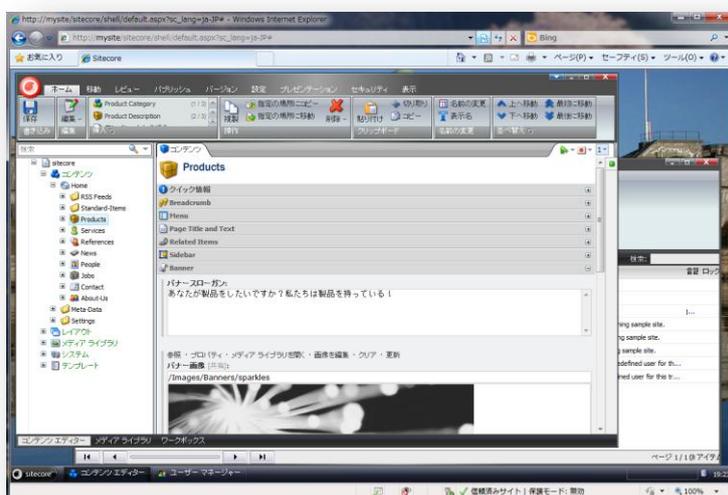
Sitecore はアイテムのデータをデータベースに保存しています。レイアウト、サブレイアウト、XSL レンダリング、ファイルメディアなどの種類のアイテムは定義アイテムを Sitecore データベースに保存し、それらはファイル システム上の対応するファイルへのパスを保存しています。このようなアイテムを複製すると、Sitecore はディスク上のファイルへの参照を複製しますが、ファイル自体は複製しません。そのようなアイテムの移動、名前の変更、削除を行ってもディスク上の対応するファイルの移動、名前の変更、削除は発生せず、参照のみが変更されます。

アイテムがコンテンツ エディターで表示される方法は、アイコンや表示名などの外観に影響するプロパティを編集することによって変更することができます。

メモ

URL には表示名でなく、アイテム名が使用されます。

Sitecore ではブラウザー ベースのユーザー インターフェイスを使用して、ユーザーがデータ構造を定義することができます。Sitecore で構築された Web サイトを編集するためには追加のモジュールをダウンロードする必要はありません。

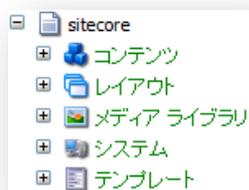


通常、Sitecore で構築された Web サイトのバックエンドには [ホスト名/sitecore] の URL でアクセスすることができます。

コンテンツ ツリーのルート アイテムは "sitecore" と呼ばれます。Sitecore のアイテムへのパスはコンテンツの階層に従って定義されます。この文書ではアイテムを参照する場合には通常は絶対パスを使用します。たとえば /sitecore/コンテンツ/サンプル/Products などです。

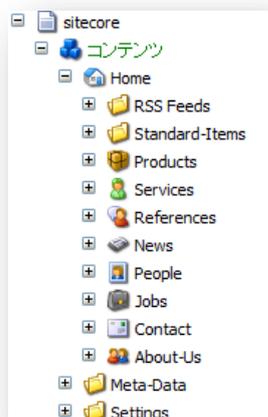
2.1.1 標準のコンテンツ ツリー エリア

"Sitecore" アイテムの下には5つの標準のコンテンツ ツリー エリアがあります: コンテンツ、レイアウト、メディア ライブラリ、システム、テンプレートです。



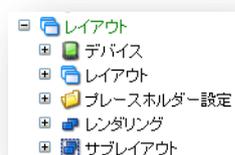
コンテンツ

コンテンツ セクションは1つのサイトの (または複数のサイトの) コンテンツを含みます。コンテンツは Web ページのレンダリングに使用されます。



レイアウト

レイアウト セクションはレイアウト、サブレイアウト、レンダリング、プレースホルダー設定などの、すべてのプレゼンテーション コンポーネントを含みます。



メディア ライブラリ

メディア ライブラリは Web サイトで使用されるすべてのメディア コンテンツを含みます。それらは画像、アニメーション、動画、PDF 文書などです。

メディア ファイルの実際のコンテンツはファイル システムに保存する (この場合はメディア テンプレートのフィールドの 1 つがディスク上のファイルの場所を参照する) か、またはエンコードしてデータベースのフィールドに保存することができます。

Sitecore は多くのメディア テンプレートを備えており、それらはメディアのメタデータ (たとえば画像の代替テキストなど) を管理するために使用されます。メディア テンプレートの一覧は [/sitecore/テンプレート/システム/メディア] テンプレート フォルダー アイテムから参照することができます。

個々のファイルまたは複数のファイルをメディア ライブラリにアップロードすることができます。大量のファイルを ZIP ファイルとしてアップロードし、アップロード後に Sitecore がそれを自動的に展開することも可能です。



システム

システム セクションはサイトのコントロールに使用されるアイテムを含みますが、アイテム自身をレンダリングすることはありません。システム セクションは下記のアイテムを含みます:



テンプレート

テンプレート セクションは Web サイトを設計するために使用される各種のテンプレートのすべてを含んでいます。

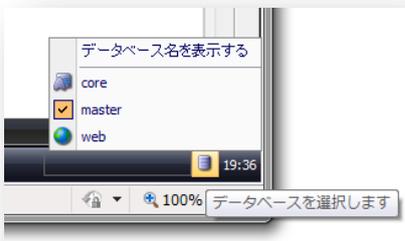
2.2 データベース

Sitecore の各インストール環境ではいくつかのリレーショナル データベースを使用して、コンテンツ オブジェクト、ユーザー 資格情報、その他のデータを保存します。Sitecore の API と XML 表記はこれらのデータベースを階層的なデータ アイテムのレポジトリとして抽象化します。

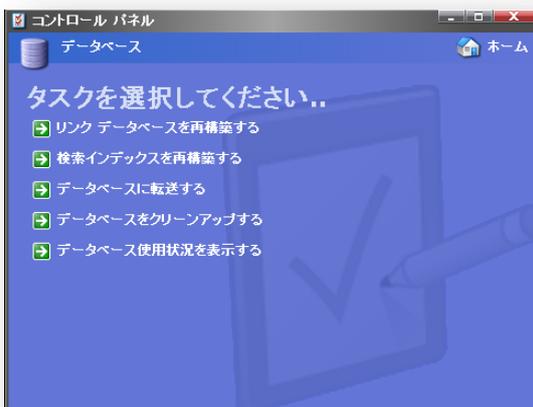
デフォルトでは Sitecore 6 は 3 つのデータベースを使用します:

- **Master** - すべてのデータ アイテムのすべてのバージョンを含みます。
- **Web** - パブリッシュ可能な各データ アイテムの最新のパブリッシュされたバージョンを含みます。デフォルトではパブリッシュされた Web サイトは Web データベースのデータを使用してレンダリングされます。
- **Core** - Sitecore のユーザー インターフェースを制御します。

デスクトップの右下隅にあるデータベース選択ボタン  をクリックすることで、データベースを切り替えることが可能です。



Sitecore はデータベースを使用するための各種ツールを備えています。それらのデータベース ツールにアクセスするには、[コントロール パネル]、[データベース] とクリックします。



Sitecore を構成して他のデータベースを使用したり、データ プロバイダーを使用して他のベンダーのデータベースをアタッチすることも可能です。

2.3 アイテムのバージョン管理

Sitecore は複数の言語で稼働するサイトをサポートします。またアイテムのバージョン管理をサポートします。Sitecore の Web サイトがサポートする言語の数は無制限です。各言語の各アイテムで異なる数値バージョンを作成することができます。たとえば、下記の画面例では News アイテムには 2 つの日本語バージョンと 1 つの英語バージョンがあります。



2 つの日本語バージョンのうち、1 つはすでにパブリッシュされているかもしれません。他方は編集集中でワークフローの途中であるかもしれません。

言語定義アイテムは [/sitecore/システム/言語] に保存されています。

アイテムのフィールド値にはバージョンあり、バージョンなし (ある言語のすべての数値バージョンは同じ値をもつが、別の言語は異なる値を持つことが可能)、共有 (すべての言語のすべてのバージョンでそのフィールドは同じ値を持つ) の 3 つの場合があります。

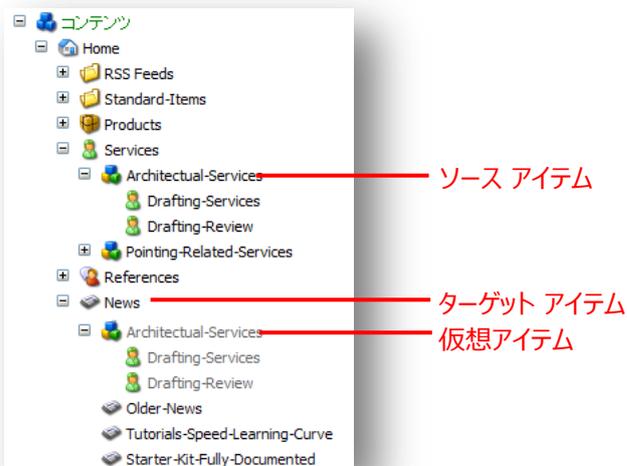
バージョンは手動で作成するか、またはワークフローによって自動的に作成することが可能です。

バージョン単位にパブリッシュ制限をかけることが可能です。パブリッシュに関する追加情報は 3.3 「パブリッシュ制限」のセクションを参照してください。

2.4 プロキシ

プロキシ アイテムを使うとソース アイテム（および子がある場合はその子）を Sitecore コンテンツ ツリーの複数の場所に表示することができます。仮想アイテムへの変更は直ちにソース アイテムに反映されます。仮想アイテムまたはサブアイテムを削除すると、ソースの同じアイテムが削除されます。

プロキシ アイテムが有効化されると、プロキシ アイテムによって仮想アイテムが生成されます。仮想アイテムはソースアイテムと同様の挙動をしますが、別の場所に表示されています。コンテンツ エディターのコンテンツ ツリーで仮想アイテムは下記のようにグレーの文字で表示されています。



プロキシ アイテムは [/sitecore/システム/プロキシ] フォルダーで定義され、次のものを指定します: ソース アイテム、ターゲット アイテム (仮想アイテムの親)、ソースのサブアイテムを仮想アイテムに表示するかどうか、ソース アイテムを取得するデータベース。



Sitecore のプロキシと仮想アイテムには次の制限があります:

- プロキシを作成できるのはコンテンツ アイテムのみです。

- 仮想アイテムをパッケージに加えることはできません。
- データベースの転送機能を使用して仮想アイテムを他のデータベースに転送することはできません。

2.4.1 プロキシ テンプレート

プロキシ アイテムは [/sitecore/テンプレート/システム/プロキシ] テンプレートをもとにしています。プロキシ テンプレートはプロキシの挙動を構成するフィールドを含んでいます。

これらのフィールドには次のものがあります:

- **ソース アイテム** - オリジナル アイテム。
- **ターゲット アイテム** - 仮想アイテムの親となるアイテム。
- **プロキシ タイプ** - プロキシ タイプを指定するドロップダウン リスト。デフォルトではリストには [サブツリー全体] と [ルートアイテムのみ] があります。
- **ソース データベース** - ソース アイテムが含まれているデータベース。ソースが現在のデータベースにある場合には、このフィールドはブランクにします。

2.4.2 必要な構成

Sitecore の `web.config` ファイルでプロキシ アイテムを有効化する必要があります。

データベースごとにプロキシを設定することが可能です。それは `database` 要素のサブ要素として (たとえば、`<database id="master"...>` 要素の下のサブ要素として) 含まれています。

デフォルトではプロキシは有効化されていません。プロキシを有効化することはサイト全体のパフォーマンスに悪影響があります。したがってプロキシはサイトで使用される場合のみ有効化します。

Sitecore には次の `web.config` 構成設定があります:

- **proxiesEnabled** — このデータベースにプロキシを有効化するかどうかを指定します。値は `True` または `False` です。

たとえば:

```
<proxiesEnabled>true</proxiesEnabled>
```

- **proxyDataProvider** — `ProxyDataProvider` に由来する型へのリンク。これは物理データ (たとえば `SQL Server`) を読むクラスです。

たとえば:

```
<proxyDataProvider ref="proxyDataProviders/main"
param1="$ (id) "></proxyDataProvider>
```

- **publishVirtualItems** — Sitecore が仮想アイテムを通常のアイテムと同様にパブリッシュするかどうかを指定します。値は `True` または `False` です。

この設定が True の場合、Sitecore は仮想アイテムをパブリッシュ ターゲット (たとえば、Web データベース) にコピーします。ひとたびパブリッシュ ターゲットにコピーされると、仮想アイテムとソースの接続は失われ、アイテムは通常のアイテムと同様の挙動をします。

この設定が False の場合、Sitecore はプロキシ定義のみをパブリッシュ ターゲットにコピーします。パブリッシュ ターゲット データベースでプロキシが有効化されている場合、Sitecore はそのデータベースのプロキシ定義にしたがって仮想アイテムを生成します。こちらが、より望ましい方法です。

たとえば：

```
<publishVirtualItems>>false</publishVirtualItems>
```

Master データベースとパブリッシュ ターゲットのプロキシ設定が互換であることは非常に重要です。たとえば、Sitecore の標準のインストール環境では 2 つの有効なケースがあります：

プロキシ定義のみがパブリッシュされる

```
<!-- master -->
<database id="master"...
  ...
  <proxiesEnabled>>true</proxiesEnabled>
  <publishVirtualItems>>false</publishVirtualItems>
  ...
</database>
<!-- web -->
<database id="web"...
  ...
  <proxiesEnabled>>true</proxiesEnabled>
  ...
</database>
```

仮想アイテムがパブリッシュされる

```
<!-- master -->
<database id="master"...
  ...
  <proxiesEnabled>>true</proxiesEnabled>
  <publishVirtualItems>>true</publishVirtualItems>
  ...
</database>
<!-- web -->
<database id="web"...
  ...
  <proxiesEnabled>>false</proxiesEnabled>
  ...
</database>
```

2.5 エイリアス

Sitecore はデフォルトのアイテムの URL をそのパスをもとに決定します。たとえば、[/sitecore/ コンテンツ /home/hr/jobs] のデフォルトの URL は [/hr/jobs.aspx] です。場合によっては長いパスに対応する短い URL がある方が便利です。たとえば、マーケティング資料 (電子メール キャンペーンや広告印刷物など) には [/jobs.aspx] の方が望ましいでしょう。Sitecore はエイリアス (別名) と呼ばれる機能によって代替 URL をサポートします。

エイリアスは [/システム/エイリアス] テンプレートをもとにして [/sitecore/ システム/エイリアス] に定義されます。

各エイリアスの名前は一意である必要があります。Sitecore の 1 つのインスタンスが 1 つのドキュメント ルートのもとで複数のサイトをホストしている場合、それらで同じエイリアス (たとえば /jobs) を使用することはできません。エイリアス テンプレートのデータ セクションには 1 つのフィールドがあり、そこではターゲット アイテムを選択することができます。

一般的に、検索エンジンを考慮すると 1 つのコンテンツ アイテムに対して複数の URL のインデックスを作成させることは避けることが望ましいので、エイリアスの使用はマーケティング資料のみを意図しています。Sitecore には sc:link や sc:path XSL 拡張機能などの URL を生成する機能や HTML エディターに生成されるリンク (各アイテムのデフォルトの URL を使用する) 機能などがあるので、エイリアスをファイルやその他のプレゼンテーション コンポーネントなどのレンダリングにハードコードするべきではありません。

2.6 リンクの管理

Sitecore はすべての内部リンクを GUID として保存します。すべての GUID リンクは Web ページ生成の実行時にテキスト表現に解決されます。このためターゲットアイテムを移動してもリンクは引き続き有効です (GUID は引き続き同一であるためです)。このことはリンク データベースの操作の最適なパフォーマンスにも有用です。

リンクはパイプラインを使用して解決されます。同様に、受信する HTTP 要求には逆方向リンク (リンク -> GUID) パイプラインを使用します。リンク パイプラインは多言語のリンクをサポートします。Sitecore は英語、デンマーク語、その他の言語で表現されるアイテムに対して、自動的に適切な URL を生成することが可能です。この機能は検索エンジンによるインデックス作成を最適化します。

さらに、デフォルトのリンク生成はサブサイトを認識し、複数サイト環境でのサブサイトのドメイン名を置換することが可能です。

デフォルトの検証コントロールは常にツリーのアイテム名が一意であることをチェックしていますが、同時に表示名がリンクの生成に使用される際にそれが一意であることもチェックしています。

IIS7 では任意の拡張子をもつかまたは拡張子のないリンクも機能します。たとえば、次の 3 つのリンクは IIS7 ではすべて有効です:

- <http://mysite.com/home/products.aspx>
- <http://mysite.com/home/products.html>
- <http://mysite.com/home/products>

Chapter 3

パブリッシュ

この章では Sitecore が作業データベースのコンテンツをライブの Web サイトにコピーする方法について説明します。

この章には次のセクションがあります。

- 概要
- パブリッシュの種類
- パブリッシュ制限
- パブリッシュ ターゲット
- ライブ モード

3.1 概要

デフォルトでは、コンテンツが修正された場合、それが Web サイトに表示されるためには、それをパブリッシュする必要があります。コンテンツは Master データベース (作業データベースを含む) で編集されますが、Sitecore は Web データベース (ライブのコンテンツを含む) のコンテンツを使用して要求された Web ページを生成します。パブリッシュは、"パブリッシュ可能" なアイテムの最新の "パブリッシュ可能" なバージョンを Master データベースから 1 つまたは複数のパブリッシュターゲット データベース (デフォルトでは Web データベース) にコピーします。

パブリッシュには次の種類があります: 個々のアイテムをパブリッシュする。変更の生じたアイテムのリストをパブリッシュする (サイト全体の "インクリメンタル パブリッシュ")。全データベースを周回して変更が検知されたアイテムをパブリッシュする (サイト全体の "スマート パブリッシュ")。全データベースを周回してすべてのパブリッシュ可能なコンテンツを変更状態にかかわらずパブリッシュする (サイト全体の "リパブリッシュ")。

ワークフローに関連付けられていないアイテムに変更が行われた場合、Sitecore はそのアイテムを内部のパブリッシュ キュー (変更の生じたアイテムのリスト) に追加します。ワークフローに関連付けられているアイテムがワークフロー最終状態に到達した場合にも、それはパブリッシュ キューに追加されます。

インクリメンタル パブリッシュはこのキューにあるすべてのアイテムをパブリッシュし、適切なアイテムの適切なバージョンを Master データベースから Web データベースにコピーします。

メモ

アイテムはその先祖がすべてパブリッシュされている場合にのみパブリッシュされます。たとえば、/Company/AboutUs は /Company が Web データベースに存在しない限り Web データベースに存在しません。

メモ

パブリッシュは各種のキャッシュをクリアします。この処理はパフォーマンスに影響がある場合があります。したがってパブリッシュの操作は適切なユーザーのみに限定することを検討する必要があります。

3.2 パブリッシュの種類

Sitecore では 4 種類のパブリッシュの方法をサポートします:

- 個々のアイテムをパブリッシュする
- 全サイトをインクリメンタル パブリッシュする
- 全サイトをスマート パブリッシュする
- 全サイトをリパブリッシュする

3.2.1 個々のアイテムをパブリッシュする

Sitecore は個々のアイテムのパブリッシュをサポートします。アイテムの子孫の有無にかかわらずパブリッシュします。個々のアイテムのパブリッシュはユーザーがコンテンツ エディターから直接起動するか、またはワークフロー アクションを使用して自動的に起動されます。

3.2.2 全サイトをインクリメンタル パブリッシュする

インクリメンタル パブリッシュはパブリッシュ キューにあるすべてのアイテムをパブリッシュします。パブリッシュ キューは変更の生じたアイテムのリストです。インクリメンタル パブリッシュは最も素早いパブリッシュのための選択肢であり、全サイトのパブリッシュを行う 3 つの選択肢のうち、最小の必要リソースですみます。

3.2.3 全サイトをスマート パブリッシュする

スマート パブリッシュはルート アイテムから開始してコンテンツ ツリーを反復しながら、Master データベースと選択されたパブリッシュ ターゲットに保存されたアイテムのリビジョン フィールドを比較します。リビジョン フィールドが合致しないパブリッシュ可能アイテムは、Master データベースからパブリッシュ ターゲットにコピーされます。スマート パブリッシュは Web データベースから、パブリッシュ可能ではなくなったアイテムを自動的に削除します。スマート パブリッシュはインクリメンタル パブリッシュよりも長い時間と多くのリソースを必要とします。

3.2.4 全サイトをリパブリッシュする

リパブリッシュはターゲット データベースの全コンテンツを Master データベースのパブリッシュ可能アイテムで上書きします。リパブリッシュはすべてのアイテムの書き込み操作を行うため、最も多くのリソースを消費するパブリッシュです (書き込み操作は読み取り操作よりも多くのリソースを必要とします)。

このリソース消費のため、リパブリッシュはデータベースが不整合を生じた状態にある場合のみに実行します。たとえば、パブリッシュ操作がネットワークの障害のために異常終了した場合などです。

3.3 パブリッシュ制限

Sitecore はコンテンツ アイテムの望ましくないパブリッシュを制限するためのいくつかの機能をサポートしています。2つの主要な機能はパブリッシュ制限とワークフローです。ワークフローに関する追加情報は『ワークフロー リファレンス ガイド』を参照してください。

デフォルトではワークフロー上にないすべてのアイテムは "パブリッシュ可能" とみなされます。Sitecore は特定のアイテムまたは特定のアイテムのバージョンのパブリッシュを無効にするいくつかの制限をサポートしています。

下記のような制限があります:

- アイテムのパブリッシュ制限で "パブリッシュ可能" のトグルをオフにして、アイテムをパブリッシュ停止にします。これはアイテムのすべての言語のすべてのバージョンに影響します。
- アイテムのパブリッシュ開始日時および (または) パブリッシュ終了日時を設定します。これによってそのアイテムのすべての言語のすべてのバージョンは開始日時以前および終了日時以後はパブリッシュ停止となります。
- アイテムのパブリッシュ制限でアイテムのあるバージョンの "パブリッシュ可能" のトグルをオフにして、アイテムのそのバージョンをパブリッシュ停止にします。
- アイテムのあるバージョンにパブリッシュ開始日時および (または) パブリッシュ終了日時を設定します。これによってそのアイテムの特定の言語の特定のバージョンは開始日時以前および終了日時以後はパブリッシュ停止となります。しかし他のバージョンがパブリッシュ可能である場合には、パブリッシュ操作によって最も大きなバージョン番号をもつパブリッシュ可能なバージョンがパブリッシュされます。

パブリッシュ制限は標準テンプレートで定義されたアイテムの [パブリッシュ] と [有効期間] のセクションに保存されます。

3.3.1 パブリッシュ セクションのフィールド

- **パブリッシュ期間 開始日時**

このフィールドはアイテムがパブリッシュ可能となる開始日時を定義します。このフィールドがブランクの場合は、そのアイテムは [パブリッシュ期間 終了日時] で指定された日時まではパブリッシュ可能です。
- **パブリッシュ期間 終了日時**

このフィールドはアイテムがパブリッシュ可能ではなくなる日時を定義しています。このフィールドがブランクの場合、そのアイテムを一度パブリッシュ可能にすると、パブリッシュ可能な状態を終了できなくなります。
- **パブリッシュ ターゲット**

このフィールドはこのアイテムに許容されるパブリッシュ ターゲットのリストを定義しています。サイトにパブリッシュターゲットが 1 つだけ定義されている場合は、すべてのアイテムは選択にかかわらず自動的にそのターゲットにパブリッシュ可能となります。
- **パブリッシュ禁止**

このチェック ボックスはアイテムのすべての言語のすべてのバージョンがパブリッシュ可能かどうかを定義します。

3.3.2 有効期間 セクションのフィールド

- **開始日時**

このフィールドはバージョンがパブリッシュ可能となる開始日時を定義します。このフィールドがブランクの場合は、そのバージョンは [終了日時] で指定された日時まではパブリッシュ可能です。

- **終了日時**

このフィールドはそのバージョンがパブリッシュ可能ではなくなる日時を定義しています。このフィールドがブランクの場合、そのアイテムを一度パブリッシュ可能にすると、パブリッシュ可能な状態を終了できなくなります。

- **バージョンを非表示にする**

このチェック ボックスは現在のバージョンがパブリッシュ可能かどうかを定義します。

3.3.3 プレビュー モード

Sitecore にはパブリッシュすることなく Web サイトをプレビューできる機能があります。プレビューはスタンドアロンのアプリケーションとして、およびコンテンツ エディターの 1 つのタブとして、提供されています。プレビュー アプリケーションではプレビューの日時を指定することが可能です。これによって現在設定されているパブリッシュ制限にもとづいて過去または将来の時点のサイトを表示することが可能です。

3.3.4 スケジュールされたパブリッシュ

パブリッシュ制限は特定の日時においてパブリッシュ可能なアイテムとバージョンを示すことができますが、パブリッシュ制限はパブリッシュ操作を自動的に起動しません。しかし Sitecore は定期的な自動パブリッシュをサポートしています。

web.config ファイルの <scheduling> セクションは Sitecore が自動パブリッシュ操作を行うスケジュールを構成します。スケジュールされたタスクを Sitecore がチェックし実行するまでの経過時間を web.config ファイルの <frequency> セクションに定義します。

たとえば:

```
<scheduling>
  <!-- Time between checking for scheduled tasks waiting to execute -->
  <frequency>01:00:00</frequency>
```

3.3.5 ワークフローによって起動されるパブリッシュ

Sitecore はアイテムが特定のワークフローの状態に到達した場合にそれをパブリッシュする自動パブリッシュ アクションを備えています。自動パブリッシュ アクションはパブリッシュ制限を優先します。パブリッシュ制限によりアイテムがパブリッシュ可能でない場合にはそのアイテムはパブリッシュされません。

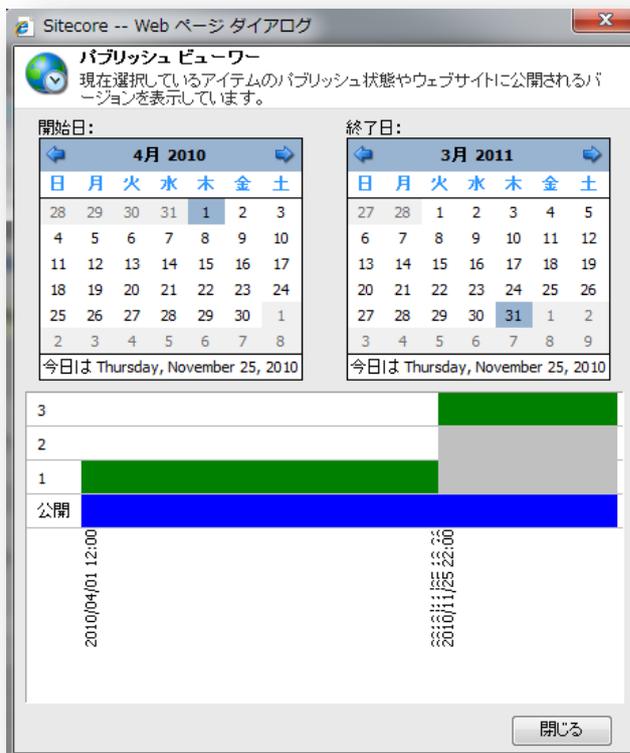
3.3.6 パブリッシュ ビューワー

Sitecore ではアイテムの現在の言語の各種のバージョンのパブリッシュ制限の概要をパブリッシュ ビューワーを使用して参照することができます。

コンテンツ エディターの [パブリッシュ] タブの [パブリッシュ] グループで [パブリッシュ ビューワー] をクリックします。



[パブリッシュ ビューワー] ダイアログ ボックスはアイテムのパブリッシュ制限とバージョンの作成日時をビジュアルに表現しています。ウィンドウ上部のカレンダーでは表示の開始日と終了日を選択します。ウィンドウの下部はアイテムの作成日を青字でビジュアルに表現しています。緑のバーは特定のバージョンが作成されてパブリッシュ可能であったことを示しています。



ダイアログの上部の 2 つのカレンダーで開始日と終了日を変更することで、表示期間を長くまたは短く変更することが可能です。これはアイテム自体の日時の設定には影響しません。

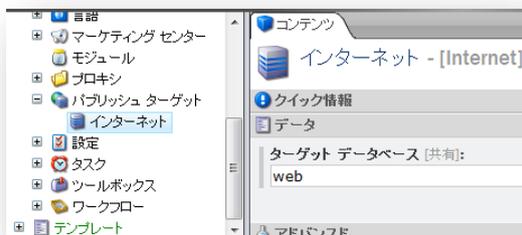
ダイアログ ボックスの下部ではアイテムの新しいバージョンの開始日などの日付が表示されています。バージョンがパブリッシュされると最上部の行に表示されます。各バージョンの正確な日時は各色のバーの上にマウスを移動すると表示されます。

バーの色の塗り分けは下記の通りです:

- 緑 - このバージョンはアクティブでパブリッシュするために有効です。
- グレー - このバージョンは非アクティブです。このバージョンは通常は新しいバージョンに置き換えられています。
- 青 - このアイテムが有効である期間を示します。必ずしもパブリッシュされているとは限りません。

3.4 パブリッシュ ターゲット

すべてのパブリッシュ ターゲットは特定のデータベースと関連付けられています。たとえば、インターネット ターゲットは Web データベースと関連付けられています。ターゲットがコンテンツ アイテムの [パブリッシュ] セクションで選択されているかどうかによらず、コンテンツはインターネット ターゲットにパブリッシュされます。



パブリッシュ ターゲットは [/sitecore/ システム/パブリッシュ ターゲット] で定義されます。

パブリッシュ ターゲットはステージング モジュールに関連があります。通常は各ランタイム サーバーの Web データベースがパブリッシュ ターゲットとして構成されています。

3.5 ライブ モード

Sitecore は Web サイトを直接 Master データベースから実行することをサポートしています。これは "ライブ モード" と呼ばれます。ライブ モードでの実行はコンテンツのパブリッシュの必要性を解消し、サイトをプレビュー クライアントで表示する場合に類似するものです。ライブ モードで構成された Web サイトは多くの点でデフォルトの Web サイトと同様の挙動をします。ライブ モードはデフォルトの Web サイトがすべてのパブリッシュ制限とワークフローをサポートするのと同様に、それらの機能を優先します。

3.5.1 ライブ モードの構成

web.config ファイルの <site> 定義の 3 つの属性によってライブ モードを構成します。

- database — デフォルトでは database 属性はパブリッシュ ターゲット (たとえば Web データベース) を指定します。ライブ モードでは database 属性では Master データベースを指定します。
- filterItems — デフォルトでは filterItems 属性は指定されず、false となっています。ライブ モードでは filterItems 属性は True と設定します。これによってサイトはアイテムの取得の際にパブリッシュ制限を優先します。
- enableWorkflow — デフォルトでは enableWorkflow は指定されず、false となっています。ライブ モードでは enableWorkflow 属性は True と設定します。これによってサイトはアイテムの取得の際にワークフローを優先します。

デフォルトの WebRoot/AppConfig/Include フォルダには Web サイトをライブ モードでの実行に変換するためのサンプルの web.config の include ファイルが含まれています。

サイトが特定のワークフロー プロバイダーを活用する場合、web.config の Master データベース定義は適切なワークフロー プロバイダー定義アイテムを含む必要があります。

3.5.2 レンダリングへの影響

ライブ モードで稼働する場合、存在するもののワークフローを完了したバージョンのないアイテムのレンダリングに問題が生じる場合があります。この場合には、コンテンツのないアイテムがブランク アイテムに見える場合があります。(特にナビゲーション コントロール、またはアイテムのリストの場合)

メニュー レンダリング (およびアイテムのリストを表示する他のレンダリング) を修正し、空のアイテムを表示しないようにします。次の条件を確認して空のアイテムをチェックします:

```
sc:fld('__created',.)!=''
```

3.5.3 キャッシュへの影響

ライブ モードでの稼働はキャッシュへの影響があります。Sitecore は通常はパブリッシュ操作時にキャッシュをクリアします。これはパブリッシュ操作によってコンテンツが変更されキャッシュの情報が古くなる場合があるためです。ライブ モードではパブリッシュがないため、同時に自動キャッシュ クリアもされなくなります。

この問題を解消するには、ライブ モードで稼働する Web サイトはキャッシュを使用しないか、またはキャッシュレンダリングに保存されたコンテンツをユーザーが変更したときに自動的にキャッシュ クリア操作を起動するようにします。